

# 展示解説

## I 鯨はどう進化したか

鯨の先祖は、新生代のはじめの約6000万年前には、まだ陸上で生活していました。それが、エサを求めて海へ生活の場をうつすと、体のしくみを海に適するように変えていきました。約5000万年前、古いタイプの鯨・原鯨類が栄えました。その後、より進化した新しいタイプの歯鯨類がこれにかわり、そして約3000万年前には、歯鯨類からヒゲ鯨類が分化してきました。現在みられる歯鯨類とヒゲ鯨類の大部分の科は、約500万年前までには出現しました。

## II 真室川鯨、やまがたを泳ぐ

発掘調査とその後の研究で、400万年前の真室川鯨の姿がしだいに明らかになってきました。鯨の種類は、下顎骨の形態から判断して、ナガスクジラ科の一種であることがわかりました。下顎骨の大きさから、鯨の体長は、16~17mと推定されました。これは、化石では国内最大級の鯨です。発掘現場での化石骨の配列は不規則だったことから、骨が海流などで乱されてから埋もれて化石になったと考えられます。また、大型の鯨にまじって、小型の鯨の骨やアシカ類の骨、サメの歯もみついています。こうした鯨がすんでいた真室川町の海は、貝類化石から考えて、水深150~300mの海だったと考えられます。

## III やまがたの鯨化石

山形で最も古い化石は、約1500万年前のもので、朝日村から産出した化石です。この次に古い化石は、約800万年前の大江町と飯豊町の化石です。最も多くの化石が産出している地域は、真室川町・戸沢村・大蔵村など最上地域で、いずれも400年前の化石です。その頃、新庄周辺は、庄内へつながる内湾になっていました。また、時代不明の化石が、庄内沖の海底で漁船の網にかかることがあります。山形の化石は、部分骨が大部分ですが、ヒゲ鯨類が多く産出しており、なかでもナガスクジラ科が最も多く、セミクジラ科も何点か存在することがわかってきました。

## IV 日本海に生きる鯨

日本海にはどんな鯨が、どれだけいるのか、実は詳しくわかっていません。しかし、日本海沿岸の各地では、近年漂着したり、定置網に迷い込んだりする鯨が増えています。日本海では、さまざまな鯨が繁殖していることが予想されます。そうしたなかで、1993年に2頭、1995年に2頭の鯨が庄内海岸に漂着しました。このうち、1993年に収集した2頭の鯨が、いろいろな処理の後に、やっと骨格標本になりました。1頭が温海町に漂着したオオギハクジラ、もう1頭が遊佐町に漂着したミンククジラです。捕鯨ができない現在、こうした漂着鯨は、鯨の研究のための貴重な資料です。

### \*主な展示資料\*

化石資料：真室川町産化石（第1次・第2次発掘ナガスクジラ科骨格・アシカ類肋骨・サメの歯・貝類、ナガスクジラ下顎骨）、戸沢村産化石（ナガスクジラ科下顎骨、セミクジラ科下顎骨、セミクジラ科尾椎、鯨類肋骨、鯨類胸椎、鯨類腰椎）、大蔵村産化石（ナガスクジラ科頭骨、ナガスクジラ科尾椎、鯨類肋骨）、大江町産化石（ナガスクジラ科）下顎骨・腰椎）、中山町産化石（ヒゲ鯨下顎骨）、寒河江市産化石（鯨類椎骨）、飯豊町産化石（鯨類椎骨）、庄内沖日本海海産産化石（ヒゲ鯨下顎骨、鯨類肋骨、歯鯨類尾椎）約60点

現生資料：ミンククジラ骨格（1993年遊佐町漂着）、オオギハクジラ骨格（1993年温海町漂着）、ミンククジラ頭骨（酒田市沖海底）、オオギハクジラ頭骨（温海町沖海底）、オオギハクジラ腰椎（鶴岡市漂着）、ナガスクジラ科下顎骨（庄内海岸漂着）約10点

### \*展示協力者・機関\*

佐藤和弘（真室川町）、寺内恵一（戸沢村）、沼野達明（新庄市）、田中智有男（新庄市）、伊藤定雄（舟形町）、佐藤洋助（温海町）、佐藤萩雄（温海町）、五十嵐進（温海町）、福井重雄（鶴岡市）、阿蘇和夫（鶴岡市）、高橋昌敏（山形市）、井上源司

真室川町教育委員会、戸沢村教育委員会、戸沢村立神田小学校、戸沢村角川中学校、鶴岡市教育委員会、中山町歴史民俗資料館、寒河江市教育委員会、温海町役場、遊佐町役場、到道博物館（順不同、敬称は略させていただきました）

## 企画展

# 鯨、やまがたを泳ぐ

—化石から現在へ—

1995

4月22日(土)~7月9日(日)

## 山形県立博物館

〒990 山形市霞城町1-8 TEL0236-45-1111



マムロガワクジラの発掘調査 1994. 11

## 開催にあたって

本展は、真室川町で1993年と1994年に発掘調査を行った大型鯨化石について、これまでの成果を公開するものです。あわせて、県内各地から産出した鯨化石を広く紹介します。そして、鯨化石を知るとともに、鯨化石から、山形の古環境の変遷についても考えていきます。

また、1993年に相次いで庄内海岸に流れついて、本館によって収集された2頭の鯨の全身骨格を公開します。そして、日本海の鯨についても、理解を深めようとするものです。

本展の開催にあたって、貴重な資料を出品して下さった関係各位に暑くお礼申し上げます。

館長 植松芳平

# 日本近海にいる鯨類

Cetaceans around Japan

